

平成 26 年度第 1 回 物理学教育 FD/ICT 活用研究委員会 議事概要

- I 日時：平成 26 年 6 月 7 日（土）13:30～15:30
- II 場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室
- III 出席者：藤原委員長、寺田副委員長、徐委員、満田委員、穴田委員、太田アドバイザー
松浦アドバイザー
(事務局) 井端事務局長, 森下主幹

IV 資料

- 資料① 平成 26 年度 物理学教育 FD/ICT 活用研究委員会の活動計画
- 資料② 対話集会に関する検討事項 (メモ)
- 資料③ 対話集会に向けた検討事項について
- 資料④ 現在の授業で顕著な効果を上げている事例
- 参考 1 用語集
- 参考 2 長崎大学 アクティブラーニング事例「経営と経済」(長崎大学 HP)
- 資料 3 国内大学におけるアクティブラーニングの組織的実践事例 (1)
(長崎大学 大学教育開発センター紀要第 3 号付表 1)
- 参考 4 100 人一斉リモコンで解答 (新聞情報)
- 資料 5 学び改革 急ピッチ 学長アンケート (新聞情報)
- 資料 6 大学 1 年生 難題で覚醒 (新聞情報)
- 資料 A-5 「環境と生物応答」
- 資料 太田アドバイザー作成の資料

V 議事

- 1. 平成 26 年度委員会活動の進め方について
 - ・能動的学修実現に向けた効果的な取り組み方策の研究について
 - (1) 能動的学修の課題について、事務局長から以下の説明があった。
 - ・多様な能動的学修が行われているが、学修成果の確認が必要である。授業の目標に対して成果が出ないことで、苦労している先生が多い。
 - ・対話集会にて、目標に対する学修成果を出せる授業のヒントが得られる可能性がある。私情協からはきっかけとしての話題提供を行い、対話集会参加者からアイデアを出していただく。
 - ・今後 3 年間で次のように進める。
 - 平成 26 年度：各分野の対話集会等
 - 平成 27 年度：各分野間の連携
 - 平成 28 年度：大学間の連携 (個々の教員レベルの交流), 公開授業, 授業見学等
 - (2) 能動的学修の事例について、事務局長から参考資料 2, 4, A-5 にもとづき各事例の成果と課題の説明があり、引き続き各委員から能動的学修の事例について、以下の意見が出された。
 - ・資料で紹介されたような能動的学修の事例は他の大学にもあるが、公表されていないものがある。
 - ・能動的学修を行う授業の評価は重要である。

- ・委員が担当する能動的学修を取り入れた授業について事例紹介があった。
 - 東京理科大学：物理学，反転授業，SA，確認テスト，ピアインストラクション。
 - 福岡大学：アカデミックスキルズゼミ，読む・聞く・話す・聞く等を修得。
 - 北海道情報大学：教養物理学，授業時間内に復習；初年次教育ゼミ，iBook 教材。
- ・これらに関連して，種々意見が出された。
 - 専門の物理学授業では反転授業はうまくいくかもしれないが，専門基礎の場合は難しい。
 - 課題等書かせたものをピアレビューする方法もある。
 - ポートフォリオを用いた学生のレフレクションが大事。
 - 学生が自分で調べる，仮説を立てることが必要。
 - 学生に関心を持たせることが必要。
 - 教員のコーチング，ファシリテートが大事。
 - 教員がファシリテーターに徹すると，クラスが取り留めのない状態になる。
 - コーチングが良いと，学生は教員をリスペクトするようになる。

2. 対話集会に向けた今後の進め方について

(1) 対話集会の進行について，事務局長から資料②にもとづいて説明があった。

- ・趣旨説明と教育改善モデルの紹介（委員長，10分）
- ・様々な能動的学修に関する話題提供（1時間）（5件各10分，質疑10分）
- ・意見交換（1時間）

以上については，ビデオ収録し公開するが，発表者の氏名，所属大学名は伏せる。

(2) 対話集会についてサイバーFD 委員に連絡するとともに，各学長に対話集会の案内を出すこととした。また，7月までに公募することとした。

(3) 次回委員会では，各委員が話題提供事例を持ち寄ることとした。

(4) 実施日時等については，以下のようすることとした。

- ・日時：平成26年12月12日（金）14:00～16:00

※その後の調整により，平成26年12月21日（日）に変更された。

- ・場所：東京理科大学 森戸記念館（神楽坂キャンパス）

3. その他

次回の委員会の開催日は、7月30日（水）13:30 とすることとした。